

# 寝屋川民報

発行  
日本共産党  
寝屋川市委員会  
072-823-0058  
FAX : 823-4336  
No.3478

寝屋川市会議員

**中林かずえ**

宝町 4-33  
090-3944-8385  
寝屋川市会議員

**松尾信次**

下木田町 12-6  
090-3056-9924  
寝屋川市会議員

**西田まさみ**

石津中町 30-3  
090-9713-3588  
前寝屋川市会議員

**太田とおる**

高柳 2-49-2  
080-3818-9722

## 災害に強いまちづくりを 松尾信次議員が代表質問



代表質問する松尾信次議員

### 水道管の耐震化 地下水の活用 小学校区ごとの防災計画を

3月7日、松尾議員が日本共産党の代表質問をおこないました。

松尾議員は、寝屋川市が中学校体育館につき、3年以内に全小学校体育館とコミュニティセンター体育室にエアコンを設置し、学校トイレを洋式化することを評価。

さらに以下、寝屋川市としての防災のとりくみの具体化をもとめました。

(1) 女性、高齢者、子ども、障害者などが利用しやすい避難所への改善。

(2) 学校給食調理場を活用しての食事の提供。

(3) 能登地震でいまだに給水できていない地域が多く残されている状況もふまえ、現在12%と遅れている水道

管の耐震化の促進。

(4) 現在休止中の香里浄水場で、地下水を活用し、緊急時に飲料水用に対応すること。

(5) 住宅の耐震化促進。

(6) 災害時に現場で対応できる技術職員の確保。

(7) 11月10日に全小学校区一斉に(仮称)市民大訓練をおこなう予定。地域協働協議会などと連携し、小学校

### 国保・介護・後期高齢者

#### 国と大阪府が制度改善・財政補助を

松尾議員は国民健康保険料が「大阪の国保

は一つ」の名で、全国一高い保険料が大阪府からおしつけられ、寝屋川市が市独自に保険料を安くできない、減免も市独自にできなく

されようとしていることについて取りあげました。

松尾議員は「国保料、

介護保険料、後期高齢者保険料いずれも値上げ。いちばん困るのは市民。どのように考えるか」と市長の認識を問いました。広瀬市長は「国保料は負担の限界を超えていると個人的には思っている。保険料負担軽減は市としてやれることはやって

区ごとの災害計画作成と防災のとりくみをすすめること、などです。

市長、上下水道局長からは、「避難所の要配慮者には避難スペースとして市立小中学校の特別教室を確保している」、「給食調理場の活用については、体制整備をおこない、炊き出しをする」、「水道管の耐震化は国に補助をもとめ、とりくむ」

「緊急時の飲料水と



して地下水活用の可能性も含め検討する」「地区防災計画については、市として計画作成のイメージを示したい」などの答弁がありました。

いきたい」と答えました。

松尾議員は1973年、革新の黒田知事の時に、大阪府で65歳以上のすべての住民の医療費が無料になったことを紹介。大阪府が事業費の8割を負担して実現しました。

「大阪府は一般会計



で3兆数千億円の規模。その気になればさまざまに住民支援はできるとし、負担軽減へのとりくみを強くもとめました。

### 市政報告会

日時：3月30日(土)

午後4時～

場所：日本共産党

寝屋川市委員会事務所

(八坂町15-35)

3月市議会について報告

した後、交流します。

# 子育て支援と教育の充実を

## 給食費無償化 子ども医療費助成制度改善など求める

松尾議員は子育て支援と教育について、以下質問しました。

(1) 給食費の無償化 東京都、青森県、和歌山県で、都と県が半分程度負担して、区市町村で、給食費無償化がはじまろうとしている。政府、大阪府に制度化をもとめること。市としても来年度期間限定でも小学校給食無償化をすること。

成制度では、高槻市が25年度から18歳までの医療費ゼロを実施する。国の制度化と大阪府に制度の抜本的な改善を求めること。

(3) 学童保育について、国の新しい補助制度を活用して、常勤の指導員の複数配置と待遇改善をすること。

(4) 教職員増を国、大阪府にもとめること。中学校35人学級の実施。

(5) 不登校の子ども 「留守家庭児童会指導の公的な居場所を整備すること。子どもと親が安心して相談できる窓口の拡充、フリースクールへの公的補助の具体化。」



## 人口減少時代のまちづくり

### 新規事業優先から防災・老朽化対策重点へ

代表質問で、松尾議員は人口減少時代のまちづくりについて、以下のように述べました。

駅前では高層マンション建設がされていますが、将来を考えれば、高層マンションに住む人は大幅に減ります。

企業は「今売れるかどうか」で判断しますが行政は将来を考えたまちづくりが必要です。小学校区を中心に日常生活圏を守ること。



「住み慣れたまちで子育てする」「住み慣れたまちで年をとっても住みつづける」これが人口減少を食い止める、まちづくりの課題です。



松尾 信次

## 萱島東地域

### 新たな道路整備軸に住民生活改善へ

松尾議員は、萱島東地域のまちづくりについて、以下のように質問しました。

萱島東地域の人口は1970年の17,375人から今年1月の8,126人と、54年間で半分に減少しています。

ろは「庶民的で便利な街・肩ひじはらずに住民がつきあえる街」です。この間、住宅の建てかえで住民が住めない状況が広がり、私は「継続して住める街」をもとめてきました。



「住み慣れたまちで子育てする」「住み慣れたまちで年をとっても住みつづける」これが人口減少を食い止める、まちづくりの課題です。

3月市議会は、「予算議会」と言われるように、今年4月から来年度3月までの市の予算を決める、たいへん大事な議会です。市政全般について議論する場です。私も8年間のブランクがあり、施策や予算について、一つひとつ具体的にになるとわからないことも多くあります。それだけに、しっかりと市民の実態と市の施策の現状をつかんで、かみあった議論になるよう、努力しています。